

科目ナンバリング									
授業科目名 <英訳>		哲学・文化史Ⅰ History of Philosophy and Culture I				担当者所属 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 戸田 剛文	
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)	哲学・思想(各論)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2025・前期		曜時限	水4		配当学年	2回生以上	対象学生	全学向
(総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)									
【授業の概要・目的】									
哲学という学問は、その対象に比較的制限のない学問であり、およそ私たちの身の回りの多くのものがその研究対象となる。むしろ、身近なものにこそ、重要な問題が含まれていると言ってよい。つまり、私たちが持っている既成概念を、そのまま既成のものとして受けとらず、改めて再検討しつづけることが重要なのである。というのも、思想を始めとして学問の進歩とは、多くの場合、既成概念や慣習化した権威を、無条件に正しいものとして受け取らないことによって行われてきたからである。また、私たちが社会で生きていく上でも、常に自分自身で物事をとらえ直そうとする姿勢は、思考力の向上につながり、より豊かな発想を生み出す源になると考えられる。 この講義では、私たちの身近な事柄にかんする哲学的な問題を取りあげ、それがどのようなものかを解説し、自らが思考するための第一歩へとつなげることを狙いとする。 哲学Ⅰ、Ⅱの授業を履修していることが望ましい。									
【到達目標】									
身近なテーマを用いることにより、普段、当然のように考えている概念がいかなるものであるのかを考察することで、常に深く考える思考力を身につける。									
【授業計画と内容】									
哲学の諸問題をひとつのテーマについて、1テーマ2-3回くらいをめどに、なぜそれらのことが問題になるのか、どのような考え方があるのか、ということを講義する。 現在予定しているテーマは、テキストに従い、次のようなものである。(テーマは少し変更する場合もある) 1. 動物の権利 2. 私と他者 3. 色 5. 自由 6. 知識 また授業中、ときどき小テストを行う。 いつ小テストを行うかは特に指示しない。									
----- 哲学・文化史Ⅰ(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----									

哲学・文化史Ⅰ(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

数回の小テストで判断する

[教科書]

[参考書等]

(参考書)

戸田剛文、松枝啓至、渡邊浩一他『哲学をはじめよう』（ナカニシヤ出版）ISBN:9784779508431

[授業外学修（予習・復習）等]

講義に関連のある書籍などを読みつつ、自分なりに問題に対して考えてください。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]